

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2024年1月15日
第55号

特集▼小樽再発見(II)おたる子ども劇場

笑顔と豊かな心を育む

12月24日、市内マリンホールでおたる子ども劇場による「0歳からの初めてのオーケストラ」が開催された。サロンオーケストラジャパンの7名の奏者の演奏に350名を超える親子の観客が心と体全体で音楽を楽しんでいた。主催代表者であるおたる子ども劇場運営委員長の杉原優子さんにお話を聞いた。

来年50周年の子ども劇場

子ども劇場は一九六六年に福岡で生まれ、現在、日本全国に約500、道内に28の劇場がある。おたる子ども劇場は一九七五年、北海道で8番目に誕生し、来年50周年目を迎える。

今も昔も変わらず、豊かな人間性を育てる地域の子育ての場として活動を続けている。

主な活動は人形劇やサーカス、演劇などの舞台芸術鑑賞(例会活動)とクリスマス会や新春おもろつき大会といった地域の文化活動(自主活動)の2本だ。

机上の学習だけでは得られない

小樽再発見 (II)

赤ちゃんから大人まで楽しむ「0歳からの初めてのオーケストラ」

赤ちゃんを抱えた若いカップルが沢山林場していた。ラデツキー行進曲、天国と地獄などのクラシック曲やクリスマスメドレーに手拍子を送り、会場が一体となって楽しんでいた。音楽が身近に感じられ、来場者の表情から満足度の高さが感じられた。

おたる子ども劇場のスタッフの方々と運営のお手伝いをさせて頂き、ベテランのお母さんたちの強力なサポート、アットホームな雰囲気心が和んだ。(進藤あおい)



ワルツに合わせ、観客もお子さんたちを抱えながら踊った。



ステージ上で演奏者に近づき、生の演奏に触れる。写真を撮ったり、コントラバスに触ったりしていた。

地域の方と家族としてつながれる子ども劇場のやりがい

人間関係や社会体験を、仲間と共に楽しめる会となっている。会は原則として親子で入会となる。一番大切にしているのは、親子で共有する時間だからだ。子どもたちがいつも笑顔で、心豊かに育ってほしいと願い、親同士が一緒に考えていくきっかけの場になることを目指す。

これまでの文化活動を子どもたちのための文化活動をこれまで、先輩たちは子ども

おたる子ども劇場の運営委員

運営委員長

杉原優子氏



長として長く活動されてきた杉原優子さんは保育士の肩書きを持つ。演奏会では「赤鼻のトナカイ」の曲に合

わせて、歌いながら振り付けをリードしてくださった。

子ども劇場の中で好きな行事は餅つき大会。「年末年始に会員の皆さんに会えるのがとてもうれしい。第二の家族ですね。」と語る。

社会の変化に対応を

今後の課題について何うと、「変化する社会に子ども劇場が取り残されていると感じることもある」と言う。情報化の時代に人とのつながり方に大きな変化が起きている。また、子どもを取り巻く環境も変化してきた。「子どもたちが本物の舞台に出会えるのは一生の宝だと思ふ。豊かな人間性を育てる地域の子育ての場として子ども劇場をこれからも大切にしたい。時代が変わり、連絡方法や会議の仕方、家族のあり方などが変わっても子どもたちが笑顔で心豊かに育つ場を地域の人々と共に作っていききたい」と語って下さった。